

▼地域行事を通じて多世代が交流する様子



香之庄自治会がグラウンドゴルフ大会を開催！

6月5日、宇曽川河川敷で香之庄自治会主催のグラウンドゴルフ大会が開催されました。

この行事はコロナ禍により2年間中止となっていました。区民アンケートをもとに再開を決定され、3年ぶりの開催となりました。

当日は、子どもからお年寄りまで総勢53名が参加され、久々の自治会行事を楽しんでおられました。

役員の方は、「全世代が楽しみながら交流することで繋がりができる」と開催の喜びを話されていました。

新しい生活様式に対応した自治会活動で交流し、コロナ禍前の「地域のきずな」を取り戻しましょう。

▼面川 與三松さん（写真中央）



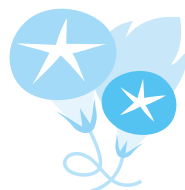
美しい心の花へ感謝状

6月24日、面川 與三松さん（豊満）へ町から感謝状の贈呈を行いました。

面川さんは、平成6年から、町内の園へ花の苗をお持ちいただき、園児に植え方を教えるなど、一人一鉢栽培にご尽力いただきました。

面川さんは、「花の美しさや、土と触れる楽しさが分かる子どもに育ってほしい」という思いから、毎年この活動のために、ご自身で培養土を作り、花の種を植え、立派な苗も育ててくれました。

長期にわたる花を通じた教育活動へのご尽力に対して、深く感謝申し上げます。



▼世界にひとつだけのびん細工手まり



伝統の技に挑戦！びん細工手まり初心者講習会

6月11日、18日、25日の3日にわたり、愛知川びんてまりの館で「びん細工手まり初心者講習会」が開催されました。

この講座は、消えつつあった技術を継承していこうと、昭和49年に町教育委員会の呼びかけによって始まり、今年で48年目となります。一度もびん細工手まりを制作したことのない5名が参加し、びん細工手まり保存会の手ほどきを受けながら、すべての工程に挑戦しました。難しい作業の連続で心配する声もありましたが、最終日には、個性豊かな美しいびん細工手まりが完成しました。

▼公益社団法人滋賀県建築士会 福谷会長（写真左）



県下初、建築士会と協定締結

6月27日、町は公益社団法人滋賀県建築士会と滋賀県下初となる「愛荘町における空家等の実態調査の判定支援に関する協定書」の締結式を行いました。本協定により、建築士が空家等の立入り検査を行い、空家等の傷み具合に対して的確な対処方法を所有者に指導することが可能になります。

有村町長から「建築の専門家が空家対策のパートナーとなっただけで非常に心強い。安心・安全な住環境整備につなげたい」と期待の言葉が述べられました。

また、福谷会長は「建築士のプロであることを強みとし、住民の皆様の住みよい環境づくりに取り組んでいきたい」と話されました。

人推協だより ほっと・あい 第196号

愛荘町人権教育推進協議会

問（事務局）教育委員会生涯学習課内（秦荘庁舎）
☎0749-37-8055 FAX0749-37-4192

人権問題
研修講座

『周りにいる大切な人を守るために』

講師：一般社団法人 全国自死遺族連絡会 代表理事 田中 幸子さん

令和4年度の愛荘町人権問題研修講座の第2回目《6月22日(水) 19:30ハーティーセンター秦荘》として、仙台から一般社団法人 全国自死遺族連絡会 代表理事 田中 幸子さんをお迎えし、愛荘町では初めて、「自死＝自殺」についての人権問題について学びました。

田中さんは、長男を自死で亡くされた母親として、身を切られるような悲しみに苦しんでこられました。精神科の受診や、占い・お寺・教会などをさ迷い歩き、自殺・うつ病の文字があるシンポジウムやセミナーにも参加されました。また、遺族に会う場所をつくられましたが、活動を通して自死遺族が背負う社会からの差別や偏見、法律的にも不備な点が多々あることに気づかれました。さらに、人を追い込む根本的な問題解決の対策はゼロに近いという事実にも打ちのめされました。

日本の社会には、自分たちが意識しない沢山の差別と偏見があることを自覚し、人が人をさげすむことを、見て見ないふりをする風潮を変える必要があると感じておられました。例えば、私には関係ないという意識、死ぬはずはないという思い込み、死ぬ人は特殊な人という概念があります。様々な生きづらい問題ときちんと向き合っていない社会を変えていくため、町の一人ひとりが自分を大切に、家族、知人、友人を大切に思う心と言動を持ち続けられる心豊かな地域、自死者ゼロの愛荘町を目指してほしいと話されました。このような田中さんからのメッセージに参加者一人ひとりが、日々の自分を振り返る機会となりました。



【参加者の感想】

- ・若い世代の方で職場での人間関係が原因で悩んでいる方は多いので、周りの方にも寄り添いたいです。生きているだけで素晴らしいとお互いが思い合える愛荘町になればいいと思います。
- ・日本でなぜ自死が多いのか。我慢を美德にする風土はNOを言いにくい社会。多様性、ジェンダー等、互いを認め合える社会にしていこうことの大切さを痛感しました。
- ・今日まで自死について考えられていなかったことに気づき、他人事と考えていたように感じました。
- ・当たり前でない命の大切さ。守るために心がけること。分かっているようで分かっていないことが再確認できました。
- ・自死に対しての不平等な点や偏見について考えたことがなかったので良い学習機会となりました。
- ・若者の生きにくさ、辛さの現状を生み出す社会問題についても人権問題としてぜひ扱ってほしいと強く感じました。

ふれあいのまち 差別のないまち 「9月は同和問題啓発強調月間」

滋賀県および各市町では、9月を「同和問題啓発強調月間」と定め、啓発事業を実施します。

愛荘町では、期間中に街頭啓発や啓発看板、横断幕、のぼり旗等をかかげ、日々の生活の中に存在する差別や偏見に気づき、心豊かな町・地域・家庭づくりをめざし、住民の皆様の人権意識の高揚を図ります。

ご理解と今一度、日々の当たり前の言動を振り返る期間としていただければ幸いです。